

令和6年度福祉部 BJ☆プロジェクト  
成果報告書

令和7年3月

## 第1章 はじめに

### 1. BJ☆プロジェクトとは

BJ☆プロジェクトは、平成28年に発足し、女性の視点から災害への備え、避難所運営や被災者支援の在り方、復旧対策などをまとめて市長に提言することから始まった。令和4年度から各部 BJ☆プロジェクトが始動し、初年度は保健部、次年度はこども部、そして今年度は福祉部が実施することとなった。福祉部では、福祉と女性の視点から、避難所生活における要配慮者にとって必要な物資等の検討と提案を目指すこととし、令和6年10月にメンバーが選定された。

令和6年は元旦に能登半島地震があり、被災地では道路寸断による物資の不足や災害関連死の発生が指摘されている。そこで、要配慮者が避難所生活において必要となるものを改めて検討し、被災自治体への視察や意見交流を参考に、本市での福祉避難所の備蓄品を充足させることで、避難所生活の環境改善や災害関連死の防止を目指すこととした。

## 2. 令和6年度BJ☆プロジェクト会議

### (1) メンバー

1	リーダー	地域共生課	小川 裕子
2	サブリーダー	障がい者施設課	廣瀬 光子
3		障がい者施設課	長井 恵美
4		障がい者支援課	太田 和子
5		生活支援課	栗原 真理

### (2) プロジェクト会議

	日程	内容
第1回	令和6年10月1日	プロジェクトについて
第2回	10月22日	防災倉庫見学と備蓄品確認
第3回	11月28日	被災地視察内容の検討
第4回	12月3日	視察先への質問事項の確認 防災ボトルの検討
視察	12月10日	被災地多古町・旭市へ視察
第5回	12月19日	被災地視察を踏まえた課題の検討
第6回	令和7年1月21日	備蓄品の検討
第7回	2月26日	提言内容の検討
第8回	3月5日	提言内容の検討
発表	3月25日	提言発表

### 3. 福祉避難所とは

福祉避難所とは、一般の避難所（小学校区防災拠点）での生活を続けることが困難で、一定の配慮を要する方を対象として開設される避難所のことである。市川市内に福祉避難所は公設避難所として22カ所、民間避難所として25カ所、合計47カ所が位置づけられている（令和7年3月現在）。

そのうち、障がい者施設課が所管している公設避難所として、中国分にある明松園と本行徳にある身体障がい者福祉センター（フォルテ行徳）においては、避難者定員を20名と想定した『福祉避難所マニュアル』がある。

『福祉避難所マニュアル』は令和5年5月に改訂されており、明松園と身体障がい者福祉センター（フォルテ行徳）が福祉避難所として開設する場合の運営等の要領を示しており、障がい者施設課が作成し必要に応じて見直している。

令和6年9月に初めて、このマニュアルに基づいた福祉避難所立ち上げ訓練を各施設で実施しており、その際に避難所としての運営方法や資材や備蓄品の再確認を行い、福祉避難所としての物資が不足している現状を改めて認識している。それらの意見を踏まえ、BJ☆

プロジェクトでは、所轄施設での福祉避難所開設を見据えた備蓄品の充足を具体的に検討することとした。

【災害対応に係るマニュアル等一覧】

【福祉避難所立ち上げ訓練】

災害対応に係るマニュアル等一覧

令和6年7月

No.	災害対応に係るマニュアル等一覧		名称	更新日	概要	担当部署	作成部署
	種別	種別					
1	共通	避難所開設マニュアル	令和6年7月	避難所開設の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
2		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
3		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
4		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
5		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
6	災害対応マニュアル	避難所開設マニュアル	令和6年7月	避難所開設の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
7		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
8		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
9		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
10		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
11	本庁舎災害対応	避難所開設マニュアル	令和6年7月	避難所開設の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
12		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
13		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
14		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
15		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
16	福祉避難所	避難所開設マニュアル	令和6年7月	避難所開設の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
17		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
18		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
19		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
20		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
21	福祉避難所	避難所開設マニュアル	令和6年7月	避難所開設の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
22		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
23		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
24		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
25		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
26	福祉避難所	避難所開設マニュアル	令和6年7月	避難所開設の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
27		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
28		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
29		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
30		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
31	福祉避難所	避難所開設マニュアル	令和6年7月	避難所開設の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
32		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
33		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
34		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
35		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
36	福祉避難所	避難所開設マニュアル	令和6年7月	避難所開設の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
37		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
38		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
39		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
40		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
41	福祉避難所	避難所開設マニュアル	令和6年7月	避難所開設の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
42		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
43		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
44		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	
45		避難所運営マニュアル	令和6年7月	避難所運営の目的、目的、実施手順、実施場所を記載している。	危機管理室	危機管理室	

身体障がい者福祉センター・フォルテ行徳  
福祉避難所立ち上げ訓練

1 日時 令和6年9月6日(金)16:30~18:00頃

2 目的 (1)資材・備蓄品等の確認  
(2)福祉避難所の設置訓練(風水害時を想定)  
(3)その他

3 参加者 倉課長 身体障がい者福祉センター及びフォルテ行徳職員

4 いろいろなケースが考えられます  
(1)今年度の市の方針は  
・風水害の場合、開設可能性あり 北: 吹込 南: 地域センター  
・ダイレクト避難を想定  
・身障フォルテは 1階10名 電源配置(医ケア受入れ可能)  
2階10名 強行行動障害者と相手されています。

(2)他には…  
利用者がいる時間帯に大地震等が発生し、そのまま帰宅困難となる場合  
利用者+一般のダイレクト避難者が利用する場合も

5 訓練概要  
(1)資材・備蓄品等の確認(別紙)  
(2)避難場所の設営(別紙マニュアル参照)  
○避難場所の整備(テント等の設営等)  
○土足禁止場所の設定(ブルーシート・養生シート・避難所マットの位置)  
○トイレの準備  
(3)受付の設置・準備  
(4)講評～撤収～終了

お疲れさまでした。  
感想や気付いたこと、ご意見などを担当までメール・Logo チャット・メモ  
等で教えてください。今後の参考にします。

## 4. 防災備蓄品の現状

### (1) 小学校備蓄倉庫、備蓄品

#### 【小学校避難所備蓄倉庫】



#### 【災害備蓄品：小学校避難所】

NO	品名	数量	備考
1	クッキーまたはビスケット	1350食 ※1350～1400食/枚	
2	アルファ米	550食 わかめ、きのこ、白米、おかゆ	
3	キューブミルク	48食 朝用昼用夜用3食から1食キューブ	
4	飲料水	96本 500ml ※96本～120本/枚	
5	使い捨て哺乳瓶	50本 ステアトール	
6	非常用飲料水袋	500枚 10ℓ/枚	
7	どんぶり、フカフカ	各200個	
8	スプーン、フォーク、箸	各200本	
9	タオル	10個 4.4枚、5.4枚、10.2個	
10	簡易トイレ	20個 袋ノストイレ	
11	携帯トイレ	3,000回 袋ノ凝濁剤	
12	トイレシート	24個 アルミ蒸着真空包装200m巻 10年備蓄用	
13	寝袋	874枚 大人用、小児用、新生児用	
14	生着用品	69枚	
15	汚物処理袋	500枚 ペット用カン子処理袋	
16	石鹸	120個 化粧石鹸	
17	ウェット手袋	80枚 氷のいらないジャンパー	
18	クワイエットタオル	100枚	
19	避難シート	80枚	
20	避難資用衛生用品セット	100セット	
21	衛生用品セット	1箱 消毒液、非接触体温計、マスク、極薄手袋、ウェットティッシュ	
22	集団災害用救急箱	1セット	
23	レスキューシート	100枚	
24	毛布	200枚 10枚/箱	
25	避難所用マット	20巻 1m×20m/巻	
26	ポータブル電池	2台 大型2016w h、小型428w h 各1台	
27	ソーラーパネル	2台 大型400w、小型50w各1台	
28	LEDライト	5個	
29	LEDランタン	1台 本体、三脚、カバー	
30	プライバシーテント(屋根無)	25張	
31	プライバシーテント(屋根有)	2張	
32	プライバシーテント	2張	
33	テラスシート	1台	
34	簡易ベッド	1個 100枚入り 使い捨て	
35	簡易寝具袋	2個	
36	防災緊急用炊具セット	1セット 筆記用具、乾電池、ランタンラジオ、下げ器、メジャー、マニュアル、災害時多言語シート、名刺、手袋、標識紙、避難所標識、受水機試験水栓ハンドル など	
37	ソーラーバーナー	1個	
38	カセット炉	1台	
39	炊飯装置	1式 LPG、薪用用 釜、バーナー、煙突、木炭、さくぼか	
40	小型発電機	1台	
41	小型投光機	1台	
42	カラン	4ℓ 圧縮型1.4×4缶	
43	エンジンオイル	1ℓ	
44	延長コード	1台 30m	
45	パンカー	1台	
46	救助工具セット	1セット	
47	バクショウキ	1個	
48	防寒袋	1個	
49	防水シート	50枚 3.6m×5.4m	
50	バケツ	20個	
51	ゴミ袋	850袋 45ℓ 3袋350個	
52	手洗い消毒液	5本 1ℓ/本	
53	簡易寝具袋	1個	
54	スローマ用具	1式	

#### 【簡易トイレ】



(凝固剤使用後)



### 【簡易ベッド】



### 【生理用品】



### 【おむつ】



### 【簡易ベッド】 (ジャバラ式)



### 【ストーマケア】



### 【筆談用具】



## (2) 身体障がい者福祉センター（フォルテ行徳） 備蓄品

### 【災害備蓄品：福祉避難所】

#### 災害用備蓄品【身障センター】

品名	数	規格・サイズ等	保管場所	最終期限	購入日・納品日	備考
飲料水 長期保存水(500ml)	24	本	身障センター	2024/7/		地域防災課
食料類						
クッキー(ヤマザキビスケット)	2	箱 (1箱50袋×70袋)	身障センター	2024/7/		地域防災課
生活用品						
防災用毛布	2	箱 (1箱10枚×10枚)	身障センター	2024/8/		地域防災課
簡易ベッド	2	台	身障センター	2024/8/		地域防災課
毛布(災害用兼用毛布)	28	枚	身障センター	2024/8/		地域防災課
毛布(災害用兼用毛布)	5	枚	身障センター	2024/8/		地域防災課
避難所用マット(防災用)	2	本	身障センター	2024/8/		地域防災課
ブルーシート	10	枚 (3.6m×5.4m(約12畳))	身障センター	2024/8/		地域防災課
ブルーシート	3	枚 (3.6m×5.4m(約12畳))	身障センター	2024/8/		地域防災課
ブルーシート	40	枚 (3.6m×5.4m(約12畳))	身障センター	2024/8/		地域防災課
使い捨て食器	多数		身障センター	2024/8/		地域防災課
LEDライト(大)	1	個	身障センター	2024/8/		地域防災課
LEDライト(小)	2	個	身障センター	2024/8/		地域防災課
ラジオ			身障センター	2024/8/		地域防災課
衛生用品						
紙おむつ(大人用)	182	枚	身障センター	2024/8/		地域防災課

#### 災害用備蓄品【フォルテ行徳】

品名	数	規格・サイズ等	保管場所	最終期限	購入日・納品日	備考
飲料水 長期保存水(500ml)	182	本 (1箱(500ml×24本)×8箱)	フォルテ行徳	2027年2月1日		地域防災課
食料類						
乾パン	80	袋 (3個×10袋)	フォルテ行徳	2027年4月1日		家族会
カレー(3食口・赤身)	80	個	フォルテ行徳	2027年2月28日		家族会
おにぎり	54	袋 (1袋×9袋)	フォルテ行徳	2027年9月1日		家族会
クッキー(明治)	54	袋 (1袋×9袋)	フォルテ行徳	2024年12月4日		家族会
業務用おにぎり(明治)	30	袋 (1袋×30袋)	フォルテ行徳	2024年12月4日		家族会
クッキー(ヤマザキ)	2	箱 (1箱50袋×70袋)	フォルテ行徳	2024年5月16日		地域防災課
生活用品						
毛布(災害用兼用毛布)	50	枚 (1箱10枚×5箱)	フォルテ行徳	2027年		地域防災課
毛布(災害用兼用毛布)	10	枚 (1箱10枚×1箱)	フォルテ行徳	2027年		地域防災課
避難所用マット(防災用)	4	本 (1本3.6m×5.4m(約12畳))	フォルテ行徳	2027年9月1日		地域防災課
ブルーシート	5	枚 (3.6m×5.4m(約12畳))	フォルテ行徳	2027年9月1日		地域防災課
ブルーシート	4	枚 (3.6m×5.4m(約12畳))	フォルテ行徳	2027年9月1日		地域防災課
ブルーシート	1	枚 (3.6m×5.4m)	フォルテ行徳	2027年9月1日		地域防災課
防災用トイレ	5	台	フォルテ行徳	2027年		地域防災課
LEDライト(大)	1	個	フォルテ行徳	2027年		地域防災課
LEDライト(小)	3	個	フォルテ行徳	2027年		地域防災課
ラジオ	1	台	フォルテ行徳	2027年		地域防災課
衛生用品						
紙おむつ(介護用)	3	箱 (1箱20枚×3箱)	フォルテ行徳	2027年		地域防災課
紙おむつ(介護用)	78	枚 (1箱20枚×3箱)	フォルテ行徳	2027年		地域防災課

5	いせい福祉センター-福祉避難所	災害救助用クッキー(期限 2028年12月)	1	箱	70	食
		立山連峰の天然水 500ml(期限 2026年01月)	1	箱	24	本
		紙おむつ(大人用) サルバシム(Lサイズ)	1	パック	26	枚
		毛布 (2019年9月 購入) 令和1年	2	箱	20	枚
		プライベートテント → 一般型ファミリールームWT-180(コロナ対策用)	1	箱	2	張
		災害緊急時用段ボールベット	1	箱	1	台
		ヘッドアップ簡易ベット	4	袋	4	台
		福祉避難所セット	1	箱	1	セット
		マスク(コロナ対策用)プロテクト ライフ マスク ホワイト O12-2	1	箱	50	枚
		医療用手袋(救急用手袋)	1	箱	100	枚
		体温計(非接触・デジタル) YHKY-2000	1	個	1	個
		手指の消毒(非接触) YHKY-2000	1	個	1	個
		SARAYA サニベスト(洗浄剤)500ml O12-9	2	本	2	本
		災害救助用クッキー(期限 2028年12月)	1	箱	70	食
		立山連峰の天然水 500ml(期限 2026年01月)	1	箱	24	本
		紙おむつ(大人用) サルバシム(Lサイズ)	1	パック	26	枚
		毛布 (2019年2月 購入) 令和1年	2	箱	20	枚
		プライベートテント → 一般型ファミリールームWT-180(コロナ対策用)	1	箱	2	張
		災害緊急時用段ボールベット	1	箱	1	台
		ヘッドアップ簡易ベット	4	袋	4	台
		福祉避難所セット	1	箱	1	セット
		マスク(コロナ対策用)プロテクト ライフ マスク ホワイト O12-2	1	箱	50	枚
		医療用手袋(救急用手袋)	1	箱	100	枚
		体温計(非接触・デジタル) YHKY-2000	1	個	1	個
		手指の消毒(非接触) YHKY-2000	1	個	1	個
		SARAYA サニベスト(洗浄剤)500ml O12-9	2	本	2	本
		災害救助用クッキー(期限 2025年03月)	1	箱	70	食
		災害救助用クッキー(期限 2028年12月)	1	箱	70	食
		缶内高圧水 6年保存水500ml(期限 2027年11月30日)	2	箱	48	本
		LEDソーラーライト(500lm)	1	箱	1	個
		毛布 (2020年9月 購入) 令和2年	3	箱	30	枚
		LED バルーンライト(本体) P4	1	箱	1	個
		LED バルーンライト(三脚) P4	1	箱	1	個
		LED バルーンライト(カバー) P4	1	箱	1	個
		簡易アルミ乾電池	1	箱	4	本
		ポータブル蓄電池(大型)2016Wh	1	箱	1	台
		ソーラーパネル(400W)	1	箱	1	台
		3インケーブル USBスマホ・モバイル充電コード	5	個	5	個
		USB-A×10ポート 60W USB AC充電器・CELECOM×GND008セット用	1	箱	1	台
		避難所用マット(期限 2006年3月購入)	3	箱	3	本
		プライベートテント → 一般型ファミリールームWT-180(コロナ対策用)	1	箱	2	張
		防護服(DuPont Tyvek softWear) Lサイズ O12-4	2	着	2	着
		防護服(DuPont Tyvek softWear) Mサイズ	2	着	2	着
		防護服(DuPont Tyvek softWear) XLサイズ	1	着	1	着
		フェイスシールド O12-5	5	枚	5	枚
		簡易トイレ(トイレットペーパー付) 1箱(大箱)	1	箱	5	個
		災害救助用毛布 (2023年 3月 購入) 令和4年度(その2)	1	箱	10	枚
		避難所用マット(期限 2008年11月購入)	2	本	2	本
		プライベートテント → 一般型ファミリールームWT-180(コロナ対策用)	1	箱	1	張
		プライベートテント → 一般型ファミリールームWT-180(コロナ対策用)	1	箱	1	張
		ヘッドアップ簡易ベット	2	袋	2	台

### 【ファミリールーム】



### 【簡易ベッド】



## 第2章 視察報告

### 1. 多古町

#### (1) 概要

多古町は県内町村の中で2番目の広さを有し、町内中部を南北に流れる栗山川の流域は、低地で水田地帯が広がっており、北部及び東部は台地が広がり畑地帯を囲むように山林が緩傾斜面となっている。



高齢人口が40%約5,000人であり、多古町の特徴として地形の影響から台風などに弱く、天気予報などで事前に予想ができる災害については、一般避難所より先に福祉避難所を立ち上げることが決まっている。毎年数回福祉避難所の開設をしており、令和6年においては8月と9月にそれぞれ開設し、約30名程度の町民が避難してきた。

#### (2) 令和元年台風15号の被害

多古町において、特に甚大であった災害は令和元年9月の台風15号であった。この災害時は9月8日(日)から9月20日(金)

まで保健センター内に福祉避難所を開設し、186名（111世帯）が避難してきた。避難してきたうち、日ごろから施設を利用している方が50名、その他避難してきた大半が高齢者であり、障がい者や乳幼児はごく一部であった。一般の避難の方も44名いた。

台風の被害が甚大なものとなった理由が山林の倒木による停電と停電に伴う断水である。風台風であったため倒木はもちろん、屋根が飛ばされるなどの被害も多く、千葉県内でも被害率が上位であった。倒木による電線の断線復旧工事は近くの銚子市から始まったため、復旧まで2週間程度時間を要した。そのため、自宅でエアコンが使えない町民が福祉避難所に避難してきた。

福祉避難所である保健センターには以前より太陽光発電があったが不十分であった。そのため、トイレや夏場のエアコンの利用も限られてしまった。福祉避難所のほかにも、停電時に浄水所の機能が停止し水道の利用ができなくなった。これらのことから、翌年には全ての避難所に発電機を設置した。浄水所にも大きな発電機を購入し、平時は盗難防止のため備蓄庫に保管しているとのことであった。

幸いにも町のほとんどの家庭がプロパンガスであった。そのため、自宅でも調理が可能であった。避難所でも要望があった事から、

1日1回職員が炊き出しを行っていた。しかし、職員数にも限りがあり、食材の確保も大変であったので、令和元年の避難所開設以降は炊き出しを行っていない。

### (3) 福祉避難所開設時の対応

気象予報などで災害が予想される際は、台風などが来る前に福祉避難所を開設し、避難者が自家用車で避難をする。避難の際には布団や食料など避難生活に必要なものを持参することになっており、住民にも意識が根付いている。自家用車で避難ができない高齢者などは近隣に住む親族や、同居の親族が災害前に車で送迎することも多くあり、保健センターには多くの車が止められる広い駐車スペースがあった。



保健センター正面玄関前の駐車スペース。  
ほとんどの避難者が車で避難してくるが、広い駐車スペースがあった。駐車スペースは保健センター裏、横にもあることであり、給水車等の駐車スペースの確保もできているとのこと。

多古町の開設のタイミングは、銚子地方気象台から発表される情報を基に開設の可能性があればあらかじめ職員配置を決めており、災害が発生する前にスムーズに開設できているとのこと。また、福祉避難所には介護の専門職員がいるわけではないことから、介護が必要な高齢者については、ケアマネジャーが事前にショートステイの利用計画を調整するなど地域の支援者が一丸となって対応している。多古町では地震よりも風水害の被害が多いことから、天候による災害には万全の態勢で対応できるようにしているとのことであった。

風水害を想定して防災計画を立てていることから、多古町の備蓄方法は町役場にて総務課が一元管理としている。食品などの備蓄品について、一括で管理することにより賞味期限の把握など備蓄品の管理が容易にできるようになったとのこと。段ボールベッドなどのみが各避難所に設置されており、適時必要な備蓄品を職員が車などで配ることとなっている。そのため、地震には対応しきれないが、暴風雨などの風水害には効率的に対応できるようにしているとのことであった。

また職員配置について、チーム編成などは予め決めてはいないが、現在、保健師は7名（2名休職）いるため保健師がローテーショ

ンを組んで対応できるよう組んでいるとのこと。夜間には必ず保健師を1人配置するようにしているがそれでも対応しきれないことから、ADLの良好な方には2階、ADLに難がある方には1階へ案内するよう、正面玄関の受付の段階で保健師により振り分けをおこなっている。この時に、服薬中の薬のチェックも行い、保健師が把握することによって、薬の残数が少ないときは親族に協力してもらうか、巡回にきている医師に処方してもらうようにするなど対応している。このことから保健師の人員確保が必要であるため、多古町では積極的に保健師の採用を進め、体制を整えようと努めている。



会議室  
避難所として活用する際には段ボールベッドと仕切りを利用していった。



和室  
避難者が自宅から持ってきた布団を畳に直に敷いていた。しかし立ち上がりが困難であった。

また、多古町の福祉避難所は保健センターのみであり、主に会議室と和室の限られた場所しかないため、避難期間が延びると避難者が増え場所の確保が困難であった。

福祉避難所には段ボールベッドは20台常時備品として唯一おいているが、介助が多くいる中で立ち上がりが困難な避難者も多い。また、和室であれば持参した布団を直に置くことは抵抗ないが、会議室などの床に布団を敷いて生活することは困難であることから、多くの段ボールベッドが必要となった。また、避難期間が増えるほど、プライベートの確保が必要となり、コロナワクチン接種で導入したパーティションの活用が有効であった。



歯科保健指導室、接種室  
乳幼児や家族で避難してきた世帯に関しては、写真のような個室を割り当てた。

乳幼児や障がい者で個室が必要な世帯には相談室や診察室などの場所の提供を行ったものの、数か所しかないため対応しきれなかった。そのため、今後は福祉避難所として防災計画にコミュニティセンターも含めていくことを検討している。

#### (4) 今後の課題と提言

多古町は毎年2～3回程度は福祉避難所の立ち上げを行っていることから、訓練などは行っておらず実戦で経験を積んでいるとのこと。また、福祉避難所の災害時マニュアルは特別になく、一般避難所のものを活用しながら、実際の立ち上げで対応している。そのため、職員も避難者も立ち上げ、避難には慣れており、心得が日ごろから備わっているとのことであった。

そのなかでも困っていることとして、段ボールベッドの数が圧倒的に足りないと感じているとのこと。立ち上がりが困難な介助が多く、衛生的にも段ボールベッドは一人一台あることが望ましい。福祉避難所には20台の段ボールベッドがあるが、町全体として毎年100台購入して対応している。

また、福祉避難所に限らず不足していたことは地域住民、避難

者の情報収集と発信方法であった。収集としては防災行政無線を平常時に加え3回程度多く放送し、福祉避難所やスーパーなど人の目に振れやすい場所に1日数回最新情報を掲示したり配布物も作成して対応していた。ライフラインの復旧が当初の予定より遅れてしまったことに対して住民から日増しに不満も増していた。そのため、最新情報を定期的に住民へ発信していくことに努めた。また逆に、避難者の困り事を知られないことは怖いことを令和元年の被災時に実感した。SNSなどを活用し発信していくことにより、災害時はたくさんの企業が支援を申し出てくれた。住民に対しては、要介護者はケアマネジャーを通して確認し、手帳保持者には町役場の職員が積極的に連絡をとり福祉避難所に連れてくるなどした。

小さな町であるので、住民への訪問や連絡といった細やかなことが実現しているが、支援機関などの関係機関と平時より関係を大事にすることにより、行政だけでは対応しきれない支援が必要な住民の声を拾うことができるようになったとのことであった。

## 2. 旭市防災資料館

### (1) 被災概要

旭市は太平洋に面しており、東日本大震災で津波の被害を受けた。旭市には岬があり、湾曲した地形をしている。そのため、北から南に降りてき波が海岸に反射し、後から来た波と重なり大きな津波被害となった。



旭市に津波が到達したのは地震発生から1時間後であった。この時の津波は4.5mであり、海岸線にあった防波堤を超えることはなかった。今まで発生した津波も防波堤を超えてくることはなく、地元の住民は津波警報が出ていても避難することはなかったという。続いてきた第二波は2～3m程度であり、津波が来ていたことに気づく住民もなく、地震後の片づけに励む住民が多くいた。地震発生から2時間半後の午後5時26分に音もなく第三波が今まで旭市を襲ったことのない高さの7.6mで到達した。飯岡小学校へ避難する住民も多くいたが、土地が低かったことから被害が甚大なものとなった。

第三波到達時は家の片づけをしており、家の外に住民が多かった。しかし、音もなく近づく津波に気づけず死者14人（関連死含む）、行方不明者2人の甚大な被害を受けた。

## （2）課題

着の身着のまま避難してきた住民が多く、避難所の運営側も被災者である認識が避難者に薄く、避難者の中には避難所をホテルのように勘違いしている住民も多くいた。そのため、避難者からも運営側の対応者として



避難所の生活を再現した模型

選別したほうがよかったかもしれないとのことであった。大前提として自分のことは自分で行うよう避難者としても平時より心得る必要がある。

また、救援物資に関しては避難所に支給されていく関係で、避難所に来ている住民には物資が行き渡るが、自宅避難の住民には物資が行き届かないといった同じ被災者にもかかわらず格差が生まれてしまった。

ほかにも、ペット同伴の避難者の対応もせまられた。クレームにつながり、ペット同伴者に不便があっても自家用車内での避難を余儀なくさせることがあるので、避難所においてはペット同伴の避難者とそうでない避難者の避難所は分ける必要があった。

数ある中でも避難所において、一番の問題がトイレ問題であった。断水のため、消防の協力ものと小学校などのプールの水を利用していた。また、手汲みのトイレや簡易トイレなどの利用については高齢者や障がい者は一人で使用することが困難であった。そのため、要介助者のトイレについては対策が必要である。

### 第3章 福祉避難所の備蓄品

身体障害者福祉センター（フォルテ行徳）での備蓄品を再検討してみた。避難者定員は20名想定、対象者は一般の避難所での生活が困難な要配慮者である。要配慮者とは、災害が発生したときに特に配慮や支援が必要となる者であり、高齢者、障がい者、乳幼児のほか、妊産婦、傷病者、内部障がい者、難病患者なども、特に支援が必要となる者として対象となっている。

#### 1. 備蓄食

災害対策用の備蓄食は、主食（炭水化物）主菜（タンパク質）の組み合わせで3日分用意することが推奨されている。加熱加工等が必要ない食品であり、主食と主菜を組みあわせられるように選択をする。また、介護が必要な高齢者や障がい者は、一般的な備蓄食では、素材や障害の特性から摂取が難しい方もいるため、適したものを準備する必要がある。栄養価が高く、高齢者でも食べやすい柔らかさ、見た目も重要視したものを選択したほうが良い。更に、嚥下・咀嚼機能の低下に配慮し、とろみ剤も準備しておく必要がある。

## 【要配慮者を対象とした備蓄食】

商品名	保存期間	規格	必要数	食数	備考
尾西のライスクッキー8枚入り	5年	48箱入	1箱	48箱	アレルギー物質28品目不使用 くちどけの良いサクサク感
長期保存クッキーみたす (1袋24g)	5年	18袋入	3箱	54袋	マンナン配合 腹持ちの良い食べきりサイズ
永谷園フリーズドライ即席ごはん (ピラフ味、炊き込みご飯)	7年	各50食入	各1箱	100食	冷めても硬くなりにくい お湯で3分、お水で5分
カゴメ野菜たっぷりスープ (トマト、カボチャ)	5年	30袋入	各2箱	120食	常温でも美味しいスープ 食器不要
尾西のひだまりパン(プレーン)	5年	36個入	2箱	72食	しっとり食感で食べやすい
白がゆ	7年	30袋入	1箱	30食	レトルトパウチ
尾西のマイルドカレーライスセット	5年	30食入	1箱	30食	子供から高齢者まで幅広く食べられるマイルドカレー 食器不要
ホテイの缶詰やきとりタレ(90g)	3年	48缶入	1箱	48食	ブルトップ缶タイプ
とりそばろ缶(70g)	3年	24缶入	2箱	48食	ブルトップ缶タイプ
つるりんこ(2g)	18か月	1箱	50食分	トロミ調整食品 個包装	
LIFESTOCK エナジータイプ(100g)	5年	80食入	1箱	80食	栄養も水分も補給できる



【備蓄食を組み合わせた案（3日分のメニュー）】

	1回目	2回目	3回目
1日目	ひだまりパン 野菜スープ クッキー 水	カレーライス 水	フリーズドライ即席ごはん 野菜スープ とりそぼろ缶 水
	438kcal	462kcal	530kcal
2日目	ひだまりパン 野菜スープ みたすクッキー 水	フリーズドライ即席ごはん 野菜スープ やきとり缶 水	フリーズドライ即席ごはん 野菜スープ とりそぼろ缶 水
	438kcal	552kcal	530kcal
3日目	ひだまりパン 野菜スープ ライスクッキー 水	フリーズドライ即席ごはん 野菜スープ とりそぼろ缶 水	フリーズドライ即席ごはん 野菜スープ やきとり缶 水
	438kcal	530kcal	522kcal

## 2. 保存水

災害時に飲料水として必要な量は、1人一日当たり1Lとされている。調理に必要な水を含めると、3L程度が必要となる。このことから、 $3L \times 20人 \times 3日分 = 360本（500ml）$  必要である。

## 3. 口腔ケア

呼吸器感染症（肺炎）の最大の予防は口腔ケアであり、過去の災害では、関連死の多くが肺炎であった。

口腔ケアは災害時も非常に重要である。主な原因は、口腔細菌の繁

殖が原因となる誤嚥性肺炎であったと考えられている。被災後の不規則な生活（睡眠不足）や栄養状態の悪化、口腔衛生状態の低下、義歯の紛失などが重なると、肺炎やインフルエンザ・風邪などの呼吸器感染症を起こしやすくなる。食べる機能や飲み込む機能が十分でない高齢者や障害者への口腔ケアは誤嚥性肺炎などの呼吸器感染症を予防するために重要である。

対策として2通りある。

水が使えない場合では、ガムやマウスウォッシュを使って口腔内を手入れする。①ガム（シュガーレス、キシリトールガム）をかむことで、ストレス解消や緊張の緩和ができる。また、唾液をたくさん出す効果もあり、唾液には口の中をきれいに洗い流してくれる働きがある。②マウスウォッシュは、口をすすぐことで菌の繁殖を防ぐことができる。③口・舌の体操や唾液腺マッサージを

行い、唾液の分泌を促す。

水がある場合は、①本人専用の歯ブラシを用意

する②歯ブラシがない場合やうがいのできない方へは、マウスウォッシュなどをスポンジブラシ、タオルやハンカチなどに吸わせて、口腔内を

**水がない災害時の口腔ケアに**

医薬部外品

- 保存期間5年間の液体ハミガキです。
- 薬用成分が歯周病菌を殺菌し、殺菌後の「菌の残がい」をしっかり吸着除去すると共に、炎症を防いでより効果的に歯周病を防ぎます。
- 1回の使用量は約10mL、1本250mL入りなので1日3回（約90mL）の使用で、ひとわり約1週間以上お使いいただけます。
- キャップをコップ代わりに使用できます。物資が不足する避難時に便利です。

長期保存用ガム・デンタルリンス 250mL 24個入

商品コード	価格	224mm
402-573	¥18,000 (税込¥19,800)	173mm

サイズ 124×195×47mm 【重量】295g



**NEW 指サック型で磨きやすい 歯みがきシート**

- 水のない環境でも、口の中を清潔にする歯みがきシート。
- 磨きやすいから歯磨きや口臭だけでなく、誤嚥性肺炎対策にも。
- 使いやすいチャック付き。
- 歯磨きや配布に便利な3日分。

SKK歯みがきシート

商品コード	価格
404-277	¥550 (税込¥595)

サイズ 205×105×20mm



ぬぐう。③義歯も少なくとも1日1回は外して汚れを取り除き手入れをする。以上のことから、マウスウォッシュや歯ブラシ、歯磨きシートなどの口腔ケア用品の備蓄は必須である。

#### 4. 水を使わない衛生用品

災害時、衛生環境悪化はストレスやケガ、病気の原因になりやすい。水が使えない災害時に、すすぎ不要で全身きれいにできるウェットティッシュや、水のいらない泡なしシャンプー（手袋型やシート型）は揃えておく必要がある。



#### 5. 液体ミルク

乳児に必要なミルク、水が不足がちとなる災害時はミルクを作ることにもまならない。避難をする際には必要なものは自分で準備をして行くことが必要であるが、準備したものが不足となることもある。そのような時には、調乳・温めなしで哺乳瓶に移してそのまま飲む液体ミルクが備蓄されていることが望ましい。液体ミルクは、災害備蓄用途にも適したスチール缶であり、常温で長期間の



保存が可能となっている。しかしながら、実際に使う機会がない方が

多いと思われる。そのため体験の機会として、子育て世代を対象とした防災教室等で、液体ミルク試飲会を開催し、防災に対する意識を深めてもらうことにつなげてみてはどうか。

## 6. 紙おむつ・生理用品

現在フォルテに備蓄されているおむつは、長期保存に不向きであり点検時には既に劣化しており使用できない状態であった。このことにより、長期保存用のものに変更をする必要がある。おむつの使用期限は、未開封で高温・直射日光が当たらない場所に保管した場合、目安として3年といわれている。備蓄品として長く保管したい需要から、おむつを特殊フィルムで密封真空パックしたものがあり、10

年保存が可能になっている。これにより、湿気、カビ、虫から守って劣化を防ぐことができる。



## 7. トイレ

避難所生活において、もっとも困難なことは排泄の問題である。施設内には水洗トイレがあるが、停電や断水、上下水道が使用できないときには、使用が不可能となる。非常用トイレ袋セットは、便器に凝

固剤が入った袋をセットしておくこと、排泄後すぐにジェル化し始める。そのまま袋を縛って破棄することにより、衛生面・臭いに配慮できる。また、外箱段ボールは洋式便座として使用もできる作りとなっている。災害時のトイレの回数は、一日およそ5回程度とされている。20人の定員数で3日分のトイレを用意すると、300回分は必要となる。備蓄品の中にはすでに含まれているが、数が圧倒的に不足すると想定できるので、最低限必要な数は揃えておく必要がある。



## 8. プライベートテント・パーティション避難所でのプライベートス

ペース確保は重要である。そして、震災そのものに対する不安な気持ちに加えて、慣れない避難所生活では、違った環境に置かれ不安定





## 9. 非常用電源

福祉避難所は、医療的ケア児（者）が避難する場所でもある。人工呼吸器や吸引機などのバッテリーは持参することになっているが、避難所生活が長引くと命の存続に直結するため、蓄電池や非常用自家発電器などは必ず備えておかなければならない。また、避難所生活を維持するための電力確保として、太陽光パネル設置も検討必要。建物の屋上に設置し、平時から使用することで節電にもなる。

## 10. ベッド

視察で得た情報では、段ボールベッドは組み立ての工程が多く、設置に時間がかかり大変であったとのこと。蛇腹式の段ボールベッドは、組み立て不要、伸ばすだけで完成するという利点がある。また、衛生面の観点からも、ベッドは一人1台が望ましい。市川市では昨年度、ワンタッチで組み立てられるヘッドアップ簡易ベッドを導入している。ヘッドアップ簡易ベッドでは実際の使用感から、設置方法が簡易で布製のソフトな感触なため、そのまま寝転がることが出来、健常者にとっては有効である。しかし、立ち上がりが困難な要介助者にとっては、支えとして手をついたとき

の不安定さにより、転倒などのリスクがあると考えられる。このことから、要介助者には蛇腹式の段ボールベッド、介護者にはヘッドアップ簡易ベッド、と使い分けながら準備することが望ましいと思われる。



## 1 1. 備蓄品倉庫

必要数を備蓄するには、保管場所がないという問題もある。保管場所を確保するため、施設の敷地内には備蓄倉庫を設置することが望ましい。しかし、設置するスペースの問題もあるため、近隣の公共施設と連携することなども検討すべきである。



## 12. あったらいいね！備蓄品

以上のことから、身障センター・フォルテ行徳フォルテ行徳の備蓄品を見直した結果、既存のもの・追加するものを含めて下記に示す。

**【福祉避難所（フォルテ行徳）備蓄品の提案】** ※は変更・追加したもの。

備蓄品	梱包数	単位	数量	単位
※保存水 500ml×24 本入	15	箱	360	本
備蓄食料 (上記参照)				
サランラップ	1	本	1	本
消毒用アルコール 5ℓ	1	本	1	本
ハンドソープ 4ℓ	1	本	1	本
ウェットティッシュ				個
歯ブラシ 50 本入り	1	箱	50	本
デンタルリンス 250ml×24	1	箱	24	本
水のいらない全身キレイセット(1人×3日分 10セット)	2	箱	20	セット
災害備蓄用大人紙パンツ (成人用 M-L14 枚)	2	パック	28	枚
災害備蓄用大人紙パンツ (成人用 L-LL12 枚)	2	パック	24	枚
非常用トイレくるくる 1セット 100 枚入り	3	セット	300	枚
おしりふき大判厚手			5	個
フェイスマスク 50 枚入り			2	箱
プラスチックグローブ 100 枚入り			10	箱
ペーパータオル			1	ケース
体温計 (非接触型)			2	本
避難所用マット			4	本
ブルーシート 3.6m×5.4m			10	枚
毛布(災害対策用毛布)1箱 10 枚入	6	箱	60	枚
LED ライト (大)	1	個	1	個
LED ライト (小)	3	個	3	個
ラジオ	1	台	1	台
※プライベートテント	10	箱	10	張
※パーティーション			10	台
※ポータブル蓄電池			1	台

	備蓄品	梱包数	単位	数量	単位
	※ヘッドアップ簡易ベッド			10	台
	※段ボールベッド（蛇腹）			10	台
	※ソーラーパネル			1	台
	養生テープ			20	本
	筆記用具（マジック 紙など）				
	ゴミ袋（黒、半透明）各 50 枚			100	枚
	ポリ袋			100	枚
	※カセットコンロ			3	台
	※カセットボンベ			3	セット
女性・乳幼児	※子供用紙おむつ SS			1	パック
	※明治ほほえみらくらくミルク			24	本
	※授乳用ケープ			1	枚
	※災害備蓄用生理用品（10年保存）昼用 28 枚夜用 15 枚			1	パック
	※おりものシート			1	パック
	※サニタリー袋			50	袋
高齢者	※入れ歯洗浄シート			20	個
	※老眼鏡			3	個
	※杖			1	本

### 1 3. 施設内の見直し

火災を想定した避難訓練を定期的に行っている。今回車いす利用者も含め利用者全員が、2階の避難経路である非常口から非常階段を使用した訓練を実施した。日常では、建物内はバリアフリー化されているため問題なく過ごせているが、非常口からの出入り口には段差があり、車いすの移動がスムーズにできなかったことが反省点として挙げられた。訓練での気づきは重要で、災害を想定しての訓練で

プライベートテントを利用者に体験してもらうことや、設備の点検  
見直し、職員体制作りに日ごろから取り組む必要がある。

## 第4章 課題と提案

### 1. 課題

#### (1) 福祉避難所について

要配慮者は環境変化に敏感であることが多いため個室に近い空間を一家族一区画分確保がすることが理想であり、安全な寝起きのために一人1台段ボールベッドを確保する必要があるがいずれも収容予定人数分の確保が出来ていない。施設内でも段差が解消されていない箇所がありバリアフリー化する必要性がある。また、段ボール製の簡易トイレは普段使用しているトイレと違い要配慮者が一人で使用することが困難で介助が必要となることと既存のストマ洗浄設備が使えなくなるため衛生面からもトイレカーの導入が必要である。

福祉避難所は人工呼吸器など医療機器が必要な要配慮者が避難してくる場所でもあり、避難所生活が長期化することは命に直結する問題となるため蓄電池の導入が必須である。

さらに要配慮者に対して健康管理や介助ができる専門職員の配置が望ましい。

#### (2) 備蓄品について

避難所によって備蓄品の内容に偏りがあり、専用保管場所のない

施設は1か所に保管できないため使い勝手が悪い。また、避難予定者数に対して十分な数量の確保ができていない。

### (3) 情報連携について

要配慮者が暮らしている地域や生活環境、家族構成等を把握することで災害発生時に速やかな対応が可能となる。視察を行った多古町では予測できる災害時に対してケアマネジャーが要介護者のショートステイ利用を事前に調整することで安全確保がスムーズに行われていた。このことからケアマネジャーや障害・介護施設等との情報連携についての仕組み作りが必要である。また、市役所内においても部や課を超え、同一課内においてもグループを超えた情報連携が必要である。

### (4) 災害に対する心構えについて

職員も市民も福祉避難所の場所や役割について理解している人は少数であると思われる。福祉避難所が身近な存在となり、円滑な運営を行うための工夫が必要である。

## 2. 提案

提案1. 備蓄品の内容確認と数量の確保を行う

・第3章 12. あったらいいね！備蓄品【福祉避難所（フォルテ行徳）備蓄品の提案】を参考に避難予定者数に合わせた数量を確保し、その保管場所として備蓄品倉庫の設置を行う

提案2. パーテーションと段ボールベッドの確保数増を図る

・多古町の福祉避難所には現在20台の段ボールベッドがあるが、町全体として毎年100台購入して対応していることから数年かけての買い増しを行い一家族一区画、一人1台の段ボールベッドの確保が出来るようにしていく必要がある

提案3. 要配慮者に対応できる専門職員の配置と蓄電池、スロープ、トイレカーの導入を行う

・多古町では夜間1名の保健師の配置を必須とし服薬管理や避難者の身体状況に応じて避難スペースを振り分ける役割を担っており保健師の採用についても積極的に進めている。このことから市川市でも有資格者の職員採用や現職員の中で有資格者の把握し配置を行う。蓄電池は人工呼吸器など命を守るための機器の電源確保のために必要であり、福祉避難所のバリアフリー化のためのスロープとトイレ動作時の安全確保と衛生環境保持のためにトイレカーの導入が必要

である

提案4．要配慮者について関係機関と情報共有を図る

・ケアマネジャーや障害・介護施設、市役所内においても部や課、同一課内でもグループを超えた情報の共有と連携を図るための協議会などの存在が必要がある

提案5．市民も参加する福祉避難所開設訓練を行う

・多古町を例に風水害時に福祉避難所を立ち上げることで訓練と実地を兼ねることができる。そこで発生した問題や課題を吸い上げ解決に向けた取り組みを市民とともに職員が行うことで自助共助公助を考えるきっかけとなりより良い福祉避難所の運営に携わることができるようになる

## 第5章 日頃の備え

### 1. 防災ポーチ

災害はいつ・どこで起こるかわからない。非常時に自宅から持ち出す防災リュックは「1次の備え」、防災ポーチは災害時に自宅に帰るまでの「0次の備え」とされている。その中で、防災ポーチは、災害だけでなく急なけがや体調不良、エレベーターに閉じ込められた時、渋滞時など様々な状況で役立つものである。いつ発生するかわからない災害に対しても、常日頃から備え、日常的に防災ポーチの活用を奨めていきたい。

平成28年度のBJ☆プロジェクトが考えた防災ポーチ

日用品	非常用
①生理用品等	⑩裁縫セット
②ハンカチ	⑫メモ
③ヘアゴム	⑬絆創膏
④常備薬	⑭ウエットティッシュ
⑤小銭	⑮小型LEDライト
⑥飴などの非常食	⑯油性マジック
⑦コンタクトレンズ	⑰カイロ
⑧笛	⑱マスク
⑨携帯用トイレ	⑲携帯充電器
⑩レジ袋	
10点190g	9点400g
ポーチを含めて 計630g	



前記のポーチ内容を基本として、令和6年度BJ☆プロジェクトで見直し・再検討をしてみた。

防寒対策として、アルミブランケットを追加。緊急時の保温シートに使用する。体に密着させれば保温に使い、雨風を避けるのにも、敷物としても使用が可能である。

ハンカチは、手や汗を拭くためのものであるが、大判なバンダナを準備するとより使い方の幅が大きくなる。ハンカチとしての代用の他、濡らして首に巻くことで、(熱を取ってくれるための)熱中症対策にもなる。また、怪我をした際の止血用や骨折時の固定、火災時には煙や有害物質を吸わないように口元に巻いてマスク代わりにもなる。さらにSOSの目印としても使えるためバンダナが望ましい。

除菌シートは感染症対策などのために追加。

ヘアゴムは、髪をまとめるだけではなく、袋を閉じたり物を束ねるときにも使える。また、腕など出血した際にバンド代わりにすることで止血をしたりすることも可能である。そのため、ヘアゴムは長くて太めでしっかりとしたものが良い。

口腔内の清潔保持は日常からも大切であり、日常的に持ち歩いている人は、防災ポーチの中身の一つに入れることを推奨する。

ほかにも水がないと使えないときのために、キシリトールガムやシュガーレスガムを携帯するのも良い。

防災ポーチは、外で数時間～1日を過ごせるアイテムを毎日持ち歩ける重さにまとめることが大切であり、人それぞれ必要なものは違う。今回は要配慮者の備えとして、高齢者・子どもを対象としたものも検討してみた。

高齢者は、災害が起こると大きなストレスやショックを受けやすくなり、普段は必要が無くても災害時に排泄のコントロールが効かなくなる場合がある。その時のために吸水パットや尿取りパットを常備しておくことが望ましい。また、入れ歯を使用している人は、入れ歯ケースや洗浄剤があると良い。特に、災害時は水が貴重であるため、入れ歯洗浄シートなど水を使用しないシートタイプが望ましいと思われる。

子どもでは、日頃持っていて安心できる物や、非常食としてのお菓子、通学時など保護者がそばにいないときに備え、昨年度子ども部のBJ☆プロジェクトが作成した「防災あんしんカード」を準備しておくことも大切である。

「防災あんしんカード」は、市川市のホームページからダウンロード

ドができる。そこには子どもの氏名、年齢等の個人情報、家族の連絡先、その他、子どもに関する情報（体の状態、使用薬、かかりつけ医、アレルギーの有無）を明記する欄がある。家族写真も貼ることが出来るので平時より持ち歩くと安心である。



## 2. 防災ボトル

防災ポーチの内容を再検討したところ、乳幼児のおやつや老眼鏡（眼鏡）などの壊れやすいものや水に濡らしたくないものは、ボトルに入れる案が出た。ボトルは、安価で手に入り、丈夫で水筒やコップとしても使える。壊れやすい物や、水や湿気から守りたいものを入れられ中身が見えるという利点がある。ポーチと併用し、必要なものを選んで入れて持ち歩くと良いと思われる。

### 【防災ボトルの使用例】



※眼鏡、おやつなどの壊れやすいもの、あんしんカードなどの水に濡れたら困る物を入れると良い。

【防災ポーチ&防災ボトルの内容】 ※は変更・追加したもの。

基本形	①生理用品	⑬裁縫セット
	②※ハンカチ→バンダナ	⑭メモ
	③※ヘアゴム（丈夫で長めのもの）	⑮絆創膏
	④常備薬	⑯ウエットティッシュ
	⑤小銭	⑰小型LEDライト
	⑥飴などの非常食	⑱油性マジック
	⑦コンタクトレンズ	⑲カイロ
	⑧笛	⑳マスク
	⑨携帯トイレ	㉑携帯充電器
	⑩レジ袋	㉒アルミブランケット
	⑪除菌シート	
	⑫歯ブラシ（キシリトールガム）	
高齢者	㉓入れ歯ケース・洗浄剤または入れ歯洗浄シート	
	㉔尿パットor吸水パット	
子ども	㉕安心できる落ち着くもの	
	㉖子供用おやつ	
	㉗防災あんしんカード（家族写真含む）	

災害がいつ起きるかわからない中、自助の備えとして日頃から必要最小限での物資の用意と工夫をご家庭で話し合い「あったらいいな」に応じた内容を考え、自分に合ったものを災害に向けて準備して常に携帯していただくことを提案したい。